

平成19年6月11日（月）

○議長（中上良隆君）順番5、11番 岩田君。

〔11番（岩田弘彦君）登壇〕

○11番（岩田弘彦君）皆さん、こんにちは。通告に従い一般質問をさせていただきます。質問事項は一つであります。

昨日幼保一元化5カ年計画が発表されましたが、市民の皆さんにとってはあまりにも突然のことであったのではないかと非常に懸念しております。それにつきましては、幾つか質問させていただきます。

まず第1、これからの時代にあった新たな乳幼児施設の再配置計画を策定し、子どもたちが生き生きとたくましく成長できる橋本市をめざすとしていますが、計画策定段階において、どのような市民参加手法に取り組んだのか。特に子育て世代（これからの世代）や、地域の皆さまなど。

②子どもたちが生き生きとたくましく成長できる橋本市のため、どのようなビジョンのもと、どのような認定こども園を考えているのか。

③増築・改修も多いようですか、コストダウンが優先された計画ではないですか。子どもたちが生き生きとたくましく成長できる橋本市のため、全国に誇れる認定こども園を考えてはどうですか。

以上、ご答弁よろしくお願いたします。

○議長（中上良隆君）11番 岩田君の一般質問に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長（上田敬二君）登壇〕

○健康福祉部長（上田敬二君）岩田議員の質問にお答えいたします。

幼保一元化5カ年計画の策定にあたっては、まず市としての確固としてビジョンを提示す

ることが先決と考え、計画を策定いたしました。したがって、計画の段階から市民の皆さまに参加していただいて、計画を練り上げていくという手法は選択しておりません。今後はパブリックコメントの募集や、説明会を開催する中でご意見を拝聴してまいりたいと考えております。

次に、どのようなビジョンのもと、どのような認定こども園を考えているかというおたただしですが、少子化の進行や教育・保育のニーズの多様化に伴い、従来の取り組みだけでは対応できない状況が生じてきております。つまり、親の就労の有無で利用施設が限定されたり、大切な乳幼児期に子ども集団が形成されない、または小規模化していること、育児不安の大きい専業主婦家庭の支援が不足している等の課題がございました。このような課題に対応するため、新たな認定こども園制度が法制化されましたので、この特徴を生かし、子どもが心豊かにたくましく生きるこども園をめざしていきたいと考えております。

次に、コストダウンが優先された計画ではないかとおたただしですが、5カ年計画では新設こども園が2園、増築、改修こども園が3園となっております。決してコストのみを優先させたものではなく、ハード面につきましては、現在の各施設状況を見極めた中で、建て替えの必要な施設については新設で、使用可能な施設については増築、改修としていく計画といたしております。

ソフト部分につきましては、こども園の特徴を生かし、多様化する保育ニーズに対応することにより、保育サービスの充実を図り、子育て支援事業なども取り組んでまいります。また、民間活力の導入を図ることにより、特

色のある教育・保育を実現し、限られた経費の中で最大の効果が発揮できるように努力し、子どもたちが生き生きとたくましく成長できる橋本市を今後ともめざしてまいりますので、ご理解のほどをお願いいたします。

○議長（中上良隆君）11番 岩田君、再質問はありますか。

11番 岩田君。

○11番（岩田弘彦君）1番目ですけれども、今後パブリックコメントをしていくと。ビジョンを打ち出してからパブリックコメントで皆さんのご意見を聞いて、問題はその後なんです。そのまま突っ走るという方向ですね。普通、計画と言えばこれは実施計画ですから。

だから、最初の段階でビジョンを出されるのは当然の話です。市のほうはこういうふうな方向でいきたいと。その中で、やはりどこかの部分で、策定段階に、これは重要な話なので、やっぱり市民の皆さんとのキャッチボールの機会というか、コミュニティバスの場合でしたら、検討委員会を開くなり、ほかのことでしたら懇話会を開くなり、いろんな方法で子どもを持つ世代の皆さんの代表の方に話を聞く会をつくるなり、いろんな方法をした中で、やはりたたき台は市が出して、それをある程度キャッチボールしまして、計画を策定しました。この計画でいきたいのでということで、パブリックコメントをするという、これが本来のパブリックコメントだと思うんです。その辺のビジョンは当然そうですよ、市当局が出すのは。その後なんです。

特に、全国を見てみても、この問題というのは非常に難しい問題というのは皆さんご承知だと思うんですが、その辺の部分で全然しておりませんというのは、これはいかなものかなというのがあるんです。全然しなくてもいいと思った理由は何なんですか。それを教えてください。

○議長（中上良隆君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（上田敬二君）従来から重要な市の計画等につきましては、学識経験者、あるいは保護者、市民代表者、今回の場合でしたら行政・教育関係者などになるのかと思えますけれども、こうした方々が参画し、検討委員会や審議会などを設置しまして、市に対して保育や幼児教育の意見具申、あるいはご提言をいただき実施していく、こういうやり方が非常に多うございました。これにつきましては、今回の計画で検討したわけですけれども、今回のこども園構想につきましては、法が昨年すぐにまとまった経緯があります。

それと、合併前からそれぞれの市・町におきまして、幼保一元化の計画とか、あるいは幼児教育福祉施設の統合計画というのが議論されてきた経緯がございます。これらで相当市民の方々の意見もいただき、あるいは橋本市については、幼保一元化で既に施設一元ができていますけれども、その中で、施設ができた後の保護者の意見等も検証いただき、検証している経緯がございます。審議会等を立ち上げていくには相当時間がかかります。合併特例債を財源とすることも関係しまして、ちょっと時間がかかるのにつきましてはどうか、そういう意見もございました。

それで、市としての大きな計画概要を今回まとめさせていただきまして、それを市民のほうへ明らかにさせていただきます。それで、パブリックコメントと先ほど答弁させていただきましたけれども、保護者説明会等を十分に開催させていただく予定でございます。その中で、いろんなご意見があろうかと思えますけれども、いただいた意見で反映できる部分につきましては、施設計画なり、運営の内容へ意見を反映させていただきたいと考えております。

また、職員に対しては、過日まだ1回目だ

と思うんですけども、保育士、調理師と保育所で働く職員に対しては説明会を持って、その中で疑問点、あるいは質問等につきましては、文書で出していただいて、その都度その都度、回答させていただくという手法をとらせていただいております。

何はともあれ、今後、地元対象地域に入って、十分な説明会を開催させていただくつもりでおります。

○議長（中上良隆君）11番 岩田君。

○11番（岩田弘彦君）いろいろ説明に回って、施設計画等も反映させていきたいという話ですので、一点目、その前に、子どもや地域の実情について、計画も見させていただいたんですけども、あまり積極的に聞いていないと思う点の一つあるんです。ちょっと指摘させてもらいます。

一番私がよくわかることを言わせていただきますと、私の隅田地域におきましては、対象児童を調べてみると、ゼロ歳児から5歳児、就学前児童数を調べますと、これは平成19年5月1日現在です。あやの台地区に200人です。兵庫園地区にこれは下兵庫、河瀬です。171人です。山内園地区、山内、平野です、32人。隅田地区、132人。この状態でムーミン谷こども園とすみだこども園だけにすることですね、計画を見ると。

単純に言わせてもらって、こども園ですので、幼稚園と保育園のいいところ、1足す1は2やなくて、3にしようという計画やと思います、すぐ考えますと。じゃ、そのこども園の配置をするときに、やはり基本的にあるのは、子どもの多いところという配置の仕方を考えていくのが普通なのに、これでは本来であれば、だいたい3園程度でやっていく。だから、保育園に一方的に集める、集めるというお話で、地域事情からそんなのは関係なくて、幼稚園はなくすみたいなき感じにとられ

てしょうがないです。実質は、いろいろ調べてみたんですが、実態的にいいますと、下兵庫幼稚園区、二つの区だけで171人、柱本小学校区全体の紀見ヶ丘、光陽台、矢倉脇、慶賀野、柱本、沓掛、そのゼロ歳児から5歳児まで全員と同じ人数なんですね。こういうふうに子どもの今の現状としては、今、保育園がないから、ほかへ行っているだけで、保育園があれば、そこへ来る。だから、こども園というのは、幼稚園と保育園と両方のいいところをつくりましょうということであるのでしたら、その配置に関しては、きちんとやっぱりその状況を見た上で、キャッチボールをして決めていく重要な必要性があると思うんです。ぱっと計画を見ただけでもそうなっていると。

その辺をもうちょっとしっかりやっていかなあかんので、一つだけ確認したいんですが、施策計画とかその内容についてとか反映させていく、配置についても説明の時点、そして皆さんからのこの計画を打ち出した中で出てきたら、それについては、十分反映させるものは反映させていくというそういう解釈でよろしいですね。

○議長（中上良隆君）幼保一元化担当参事。

○幼保一元化担当参事（前田彦尚君）今、岩田議員のほうから細かい乳幼児の数に合わせた配置計画という形の提案をいただいたように思います。

隅田の乳幼児の数でいきますと、確かに河瀬、下兵庫の乳幼児はあやの台に次いで2番目でございます。しかしながら、兵庫幼稚園の園児数、要するに働く女性が多いためです、その地域はやっぱり保育所を選択しているという実情がございます。19年度の兵庫幼稚園の園児数は4歳児が8名、5歳児7名、現在15名の状況です。したがって、隅田全体を見ますと、やはり統廃合等を考えます

と、隅田に二つのこども園をつくるということになってきますと、統廃合の観点といえますか、その15名が増える可能性というのは本当に少のうございます。今後、10年、15年、20年をシミュレーションしてみますと、20年後には、橋本市の乳幼児の数は54%であります。こういう危機感を持っておられるわけですが、そういう中において、ある程度前倒しといいますか、積極的な5年後、10年後、15年後ぐらい先を考えた施設計画も必要やないかというふうに思いまして、兵庫の幼稚園につきましても、隅田のほうに統合して、隅田中学校校区で何とか1個という形の案を描いておるところでございますので、ご理解のほどよろしくお願ひしたいと思います。

○議長（中上良隆君）11番 岩田君。

○11番（岩田弘彦君）答弁が私が聞いていることと違うんですが、私はだから下兵庫の幼稚園の状況を把握せんと計画しているのと違うかということをおっしゃると思うんですよ。だから、そういうこともあるので、なぜかという、計画書を見ると、幼稚園は何人です、保育園は何人です、幼稚園は18人しかいませんけども、はっきり言わせてもろうたら、隅田の保育園に50人ほど行ってるさかいにいてないんや。そんな現状をわかっているのかなという話をしているんですわ。

そういうこともあるので、もっとやっぱり地域住民の皆さんとか、ほんまに子どもを持つ親、そして子育て支援もするんでしょう。単にどうするかという話なんよ。だから、五つあるところを三つするのか、二つにするんか、三つにしたほうが子育ての親、在宅の親もこれはほんまに支援していくわけでしょう、これから。どっさり子どもがおるのに遠くへ行けみたいな状態になるわけや。そういうところもやっぱりきちんと現状をキャッチボールしないとあかんから、一方的にあっちにし

なさいと。これは隅田のことだけ私にわかりやすいさかいに言うておるんですけどね。その辺もやっぱり反映させていかないと。

だから、ビジョンを出していただくのは結構です。それは当然すばらしいことやと思います。真剣に考えられていると思いますよ。計画をぼつと新聞に発表したりするときは、ある程度キャッチボールしてからいっておかないと、もうこれで行くので、あと文句なかったらこれで行きますわみたいに、これはいつもやり方がそうが多いでしょう、しゃあないんで、しゃあないんでみたい。そうやなくて、もっとほんまに結果そないになっても、キャッチボールというのを大事にしてほしいわけですよ。

だから、今後、よくあるのが、この計画やさかいにしゃあないんです、キャッチボールしてもしゃあないんですやなくて、キャッチボールした結果をやっぱり反映させていく、だから、この配置に関しても反映させていく皆さんのほんまに要望があったら、強い要望があったら反映させることもあるんですよ。その説明をしてほしいということを私は言うているので、その答えを欲しいわけですよ。

何でか言うたら、単純に隅田のことがよくわかるので言わせてもらいますと、隅田の保育園に一つこども園をつくったとします。そしたら、下兵庫に一つこども園をつくったとします。そうしたら、隅田の保育園に行っている40人ぐらいの人は、同じでしたら近くの下兵庫の幼稚園に行くでしょう。そしたら、そこはあくでしょう。そのまま使えと。じゃ、ほんなら下兵庫の幼稚園をこども園にしてもいいわけでしょう。こども園という形で、ちょっと工夫すれば、それだけの人数をキープできるので、まずいったんそれからやってみましょうか。

それで、その中で次の段階で、恋野の話もあるんでしょう。次の段階で投資をかけて、もっとええもんをつくりましょうかって、集まりましょうかという話もあり得る話じゃないですか、これ。そんなにコストがかかるという話じゃないので。そんな話も全然キャッチボールがなしに、一方的に言っているような気がするので、これに関しては説明に行くときも、普通やったら説明というのは一方的なものです、本来。そうではなくて、その説明の中に十分キャッチボールをして、配置についても配慮できるぐらいのキャッチボールの仕方をしてくださいということです、その答弁をお願いします。

○議長（中上良隆君） 幼保一元化担当参事。

○幼保一元化担当参事（前田彦尚君） これから、住民の説明会に参ります。そのときには、もちろん住民の皆さん方の意見を十分聞かせてもらおうつもりであります。

パブリックコメント募集、あるいは住民説明会等をこれからやっていく中で、たくさんこれからご意見が出てきます。そのご意見については、一つ一つ市の内部のほうで検討させてもらいまして、取り入れるべきものは取り入れ、捨てるべきものは捨て、市として今総合的に判断させていただきたいとこういうふうに考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（中上良隆君） 11番 岩田君。

○11番（岩田弘彦君） 「捨てるべきものは捨て」というのと違って、皆、市民の皆さんのご意見は大事にさせていただいて、反対の意見も賛成の意見もそれは意見として捨てないでください。取り入れてくれるということなので、ひとつよろしくお願ひします。

次に、2番に行きます。ビジョン的なところで、僕の質問がふわっとしておったので、ふわっとした回答が返ってきたんですが、一番

思うことがあるんです。それは認定こども園ですばらしいものをきつつくってくれるでしょうと思います。ところが、子どもが育っていくときに、やっぱり最初身近な単位、やっぱりゼロ歳から5歳児ということになると、「三つ子の魂、百まで」というのは、僕はまさにそうやと思うんです。そのゼロ歳から5歳児、まずは身近なところの単位で、いろんな地域のことも感じながらやっていく単位をまず経験して、その中でいろんなこと、社会教育を感じていく、次に、また次の大きな社会を経験していくといういき方が一番いいと思うんです。

物理的に無理なのはしょうがないと思うんですが、一番最初の根本に考えなければあかんのは、幼稚園と保育園という今まで乳幼児施設でのやり方をしておったのを、こども園という乳幼児施設のやり方に変えていくわけですから、こども園としての施設配置については、どのように考えていくかというときに、僕は基本的には小さく、細かく、コストがかかったとしても、小さく細かくできるものであればつくって行って、そして小学校になって、ある程度のところが集まって小学校を形成するとちょっと大きな社会を感じる。その中からしっかりと人格形成をしていっていき。今だから、家庭とか地域とのかかわりが大事だと言われているときに、あまりいっぺんにマンモス校にどっと子どもを集めていくのはいかがなものかなという心配をしております。

だから、私の心配が間違いかわかりませんので、その辺の判断、今のところの考え方でしたら、五つは1個にしたらええ。言葉は悪いかわかりません。そういうふうにとれるんです。それが果たしてゼロ歳から5歳児の乳幼児施設としてすばらしいのか、私ははっきり言わせてもらいますが、乳幼児施設にコス

トがかかってもいいタイプです。ほかのものを節約しても、子どものことはやっていったらいいと思います。だからその観点に立って、その辺についてはどのようにお考えなのか、ちょっと聞かせてほしいんですが。

○議長（中上良隆君） 幼保一元化担当参事。

○幼保一元化担当参事（前田彦尚君） 子どもの集団の考え方になると思うんですけども、4歳、5歳、3歳、子どもの集団は最低でも一つの集団が7人から8人というふうに言われております。これが、一つの集団ですので、こういう集団がある程度、塊まりとなって、一つの集団が形成されなければいけないというふうに考えております。一番大事な時期ですので、その集団というのが、ある程度大きいほうがいいと思います。

それで、これから人格を形成した子どもたちが社会に出ていますので、いろんなことを遭遇すると思います。そういうことでしっかりとしたある程度の集団が必要かと思っておりますので、だいたい私どもの考えている計画の人数ですと満足できる集団だと、こういうふうに考えております。

以上です。

○議長（中上良隆君） 11番 岩田君。

○11番（岩田弘彦君） 私はちょっと大き過ぎるのではないかという懸念をしているんです。というのは、そのこども園の単位がです。だから、それはスケールメリットで、それは五つ寄ってもらって、1個になったほうがそりゃええのはわかっておるわけですよ。私もコストがかかる話をしているかもわかりません。でも、本当になるべくでしたら、地域のニーズに合ったところに細かくつくってやってほしいと。いっぺん五つ1個というの、それは一番もちろんコスト的には必要かもわからんけども、その辺ももう1回検討していただきたいということで、これはご検討をいた

だくということで、よろしくをお願いします。

次に3番です。これも同じような話になるんですけども、計画の中で新設と増築・改修というのがある。一番気にするのは清水、隅田の計画どおりいったとしてですけども、増築・改修という形になるという。三つ、四つをスクラップして新しいのを建てるというパターンですね、このパターンは。子どもどうこうの話は置いておいて、経営的な話をすると、スクラップ・スクラップ・スクラップ・アンド・ビルドという話ですので。

今、隅田のほうを見てみましても、道がえらい狭いところにスクールゾーンが並んでいるところに無理やり増築して広げていく。コストが、お金がないから、大事に施設を使ったほうがいいから。それはもちろんそうなんです。ところが、本来はこんなすばらしいこども園をつくるので、三つスクラップさせてもらって、みんなここに寄って行ってよ。このぐらいのことがないと、この計画はできないと思うんです。だから、基本的には、全部新設の方向性というか、適切な場所にこれはほかのものを削ってでも、ドライブスルーですと行けるとか、ほかの市に行ったらあるんですが、山のすそ野に園を構えまして、後ろの山はもうそこのこども園なんよと。自由にそこで子どもが伸び伸びと遊んだらええから、みんな悪いけど、五つも八つをこのすばらしいこども園に集まってもらえへんかなと。これがビジョンじゃないんでしょうか。言うたらインターネットを開くと、先ほどの回答の話が出てきます。うちのこども園にかける情熱とか、思いは何なのよというのをうちの個性を出してアピールしていくという必要性もあると思うんです。

これは担当部署に言うたっても、上からコストを削減せいと言われても無理な話なので、市長、こども園をつくるときに、本当にその

ぐらいの思いで、いいじゃないですか、ちょっとぐらいコストがかかっても、市民に説明してくださいよ。こんなにすばらしいのをつくるから、これだけはええのをつくらせて言うたらええんじゃないでしょうか。スクラップ・アンド・ビルドですので、三つなくして一つのええのを建てるので、三つのコストダウンでその借金は返していただけますよ。

子どもに対しては、それぐらいの施設をつくって、うちは子育てがすばらしい、やりやすい、都会が一番近い田舎なんですよ。次の世代の皆さん、住んでくださいよって。企業誘致もして、仕事もつくりましますというたら、すばらしいんじゃないでしょうか。その辺の市長の思い、ちょっと聞かせていただいて、終わりにしたいんですが、市長、よろしくお願いします。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）岩田議員の再質問に対してのお答えを申し上げたいと思います。

非常に私が県会における当時でございましたが、橋本市から特区ということで、ムーミン谷の幼保一元化の、あれは県下の第1号でございました。それから私も何度かそこを見させていただいて、本当にすばらしい運営なり、指導なり、アドバイスがなされていることをその後、何度が見させていただいたわけがあります。

ああいう相当大規模でございますけれども、やはりそういう考え方が時代の要請でもありますし、少子化ということも手伝って、やはりそういう総数でいいますと、子どもたちがある程度やはり集約して、寄って、そして取り組んでいくということは非常に意義があるんじゃないかなと思っておるわけでございますし、本当に先刻から全員協議会でも説明をさせていただいておるわけでございますけれ

ども、今後とも、ひとつこの問題については、すばらしいそういう地域の中で溶け込める施設、それを高野口からスタートしながら、ひとつ位置付けてまいりたいと思っておるわけでありまして、ひとつまだ今完璧な仕上げの段階ではございませんし、ある程度、手直しも、これからまた住民・保護者の皆さんの意見もちょうだいしながら、きめの細かい、そういう計画に乗せてひとつ進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いをしたいと思えます。

○議長（中上良隆君）11番 岩田君。

○11番（岩田弘彦君）ええもんをつくってもらえるとは思いますが、さっき言うている一番気になるのが、もうはなから清水と隅田は増築ですよと計画書に何で書くのよ。そんなんじゃないかと、もっとほかの場所にええのがあったら、皆さん、ええのをつくりましょうよみたいな、そんなのでいいのじゃないですか。だから、コストダウンばかり先行しておるとなるので、そこのところだけ市長、新設も考えますよと、「新設または」ぐらいの気持ちでやっていただきたいということで、きつと言っただけのものとして、質問を終わらせていただきます。どうですか。

○議長（中上良隆君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）再質問にお答えいたしたいと思います。本当に財政が立たんということは、もうしょっちゅう言葉の端に出てくるわけではありますが、やはりそうしたコストの面も含めて、すべてがその新築したらいいものだということは私は限らんと思えます。やはりその内容の問題、中身の問題やと私は思いますので、ひとつこれからは十分に皆さんの意見も拝聴しながら、本当にそうした子どものすくすくとした成長過程の大事な時期であるだけに、細心の注意を払っていきたい

と思います。

以上でございます。

○議長(中上良隆君) これをもって、11番 岩田君の一般質問は終わりました。

この際、2時15分まで休憩いたします。

(午後2時1分 休憩)